

KSKR パンジーだより



一九九六年五月一日 第三種郵便物認可 毎月（一・二・三・四・五・六・七・八の日）発行



障害の重い当事者が「地域で生きる力」を拓く



新しい年が始まると、私たちはまた、新しいステージに踏み出します。

2023年6月から全国で上映してきた映画「大空へはばたこう」。この作品は、知的障害のある人が「どんなに重い障害があっても、地域で自分らしく暮らすためには何が必要なのか」を問いかける作品です。これまでに約2000人の方が観ていただきました。

ある団体では、243人が鑑賞し、感想とともにとても丁寧なアンケート分析を送っていただきました。75%の方が入所施設の限界を改めて感じ、95%の方が「一人ひとりに合った支援があれば、重い障害があっても地域で暮らせる」と答えています。ここまで踏み込んだ結果をいただいたのは初めてで、上映を続ける頼もしい力をもらいました。

一方で、国の動きはなかなか進まず、事業者の中にも「入所施設をなくすなんて無理」と考える人がまだ多いのも現実です。現場は常に忙しく、「どうしたらできるの?」と悩む職員がいるのもよく分かります。

それでもパンジーには、保護者や事業所からの見学が確実に増えています。「何とかしたい」と動き出す人たちが着実に広がっているのです。見学された方からは、

・地域で暮らし始めた当事者の表情が、どんどん豊かになっていくのを映像で見て驚いた。

・法人の運営に当事者が関わる「かえる会」があることに衝撃を受けた。

そうした声を受けて改めて感じたのは、「私たちの仕事の中心にあるのは、知的障害のある人の人権を守ることだ」ということです。障害の重い人との信頼関係をしっかりと育て、当事者の活動の場をつくり、地域での暮らしを支える拠点を整えていく。この積み重ねこそが、たとえ障害が重くても地域で暮らせる未来につながり、結果として入所施設が必要なくなる道をつくっていきます。（林 淑美）

自分で人生を選べる社会をめざして

インクルージョン・インターナショナル世界大会 in アラブ首長国連邦



2025年9月、インクルージョン・インターナショナルの世界大会がアラブ首長国連邦のシャルジャ(ドバイの隣)で、7年ぶりに開催されました。インクルージョン・インターナショナルは、知的障害者・家族・支援者の国際的なネットワークです。この大会に参加して、世界で知的障害のある人たちがどのような状況にあるのかを学び、世界の仲間とつながりたい。私たちは1年前から準備を始めました。そして、全国のピープルファーストの仲間とツアーを組み、通訳者を含め総勢25人で参加したのです。

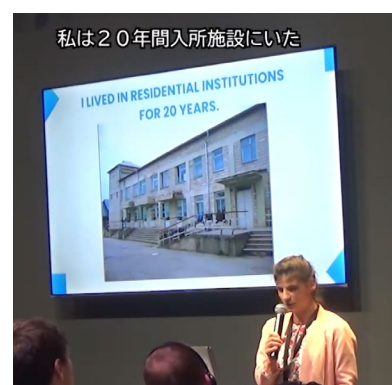


9月14日のセルフアドボケイト(権利擁護の活動を行う知的障害当事者)の大会を皮きりに、17日までの4日間にわたって連日開かれました。

●施設収容の現実と権利の侵害

大会で最も大きなテーマは「脱施設化」(Deinstitutionalization)です。知的障害のある人たちの権利、尊厳、そして完全な社会参加を達成するための最も重要な課題の一つとして話し合われたのです。施設収容が彼らの権利を侵害し、虐待や暴力を生み出す温床であるという共通認識もはっきりと示されました。ヨルダン障害者権利高等評議会の代表者は、施設は「保護」の名のもとに人々の自己決定権を奪っていると指摘し、隔離と孤立の悪影響を強く訴えました。

インクルージョン・ヨーロッパのミランさんの報告によれば、ヨーロッパでは現在、100万人以上の知的障害者が入所施設や精神科病院に収容されている深刻な現状があります。ミランさんは、脱施設化は新しい概念ではなく、チェコ共和国やウクライナなど多くの国で成功例があること。それにもかかわらず、政府が「実施方法を知らない」と主張するのは言い訳に過ぎないと断じました。ヨーロッパのヴァリディティ財団のアレンさんは、政府に対し、施設存続の要因となっている入所施設への補助金の支給を停止するよう働きかけていると報告しました。



●当事者の声:地域生活がもたらす尊厳

サバイバー(入所施設を経験した当事者)の体験は、脱施設化の最も強力な根拠となりました。モルドバ出身のダイアナさんは、20年間を施設で過ごし、「自分の選択肢を奪われ、夢を取り上げられ、法的な権利もなく、いじめられた」と発表しました。しかし、今は地域生活へ移行し、自分の人生を自分で決められるようになったと言います。仕事を通して収入を得て、社会的なつながりを持つことができています。彼女は、いまだ施設に残る2000人のモルドバの仲間のため、政府に施設の即時閉鎖を強く求めました。日本から参加したピープルファースト北海道の土本秋夫さんやパンジーの浅野真岳さんも、多くの知的障

害者が入所施設や大規模グループホームなどに入所し、そこで虐待を受けている日本の現状を報告しました。土本さんは「何よりもまず人間として尊重されるべきだ」と強調しました。

●自立生活の実現と今後の課題

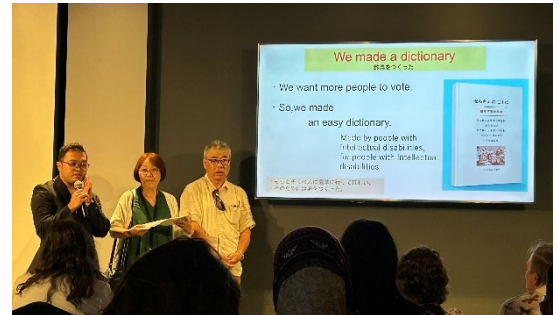
脱施設化の最終目標は、知的障害のある人たちが地域社会の中で自分の人生を選択し、質の高い生活を送れる世の中にあることです。浅野さんは、重度の知的障害がありながらも入所施設を出て、月に700時間もの個別支援(重度訪問介護)を受け、地域で自立生活を送っている千頭雄介さんの事例を報告。「重度の障害者は施設にしか住めない」という固定観念を打ち破る成功例として、各国の参加者から共感をもって受け入れられました。



残念ながら日本では、今もなお入所施設を出ること自体が目標となっているところがあります。また、定員が10名～20名と大規模の場合、グループホームであっても施設ではないため、地域移行したものと扱われてしまうのです。なお、アメリカでは7名以上のグループホームも削減対象の入所施設として扱われています。自分の人生を選択し、質の高い生活ができる環境は、大人数のなかの一人では実現できないことは明らかです。

●自分たちが分かりやすい文書をつくる

4日間の大会では、全部で64のセッション(分科会)が開かれ、パンジーは脱施設化の他に3つのセッションを担当しました。一つは「わかりやすい資料の作成」です。「わかりやすい資料」とは、障害の有無に関わらず、すべての人が内容を理解できるように作成された文書であると定義されています。



自己決定権を行使するために不可欠なツールとして、世界の様々な組織では政府と連携しながら、当事者が主体的な立場として作成に関わっています。私たちは選挙勉強会の取組を報告し、分かりやすい方法で学ぶことができれば、障害が重くても政治参加することができると発表しました。

●自らカメラとマイクを取り、社会に発信する

パンジーメディアとしては2つのセッションを担当しました。「メディア革命」のセッションでは、知的障害のある人たちが自らメディアを通じて声を上げ、社会の差別や偏見を打ち破るための活動に焦点を当てたものです。エジプトでテレビ司会者をするダウン症のラフマさんとともに、メディアの発信者として情報を届けていくことで、社会の認識と構造を変えていくことを明確に示しました。そして最終日に開かれた上映会「大空へはばたこう」(英語版)は、当事者の山田浩さんが取材した、入所施設のない社会を訴える作品です。私たちはこの世界大会を通じて、自分たちの取り組みが世界の潮流と同じ方向にあることを改めて確認しました。

そして、これからも世界の仲間とともに歩み続けていきます。(福岡 拳)



書き損じハガキ・未使用切手を送ってください！

ご家庭や会社などで書き損じのハガキ、スタンプを押していない切手など眠っていませんか？
当事者活動部門ではこれらを集めて活動資金にあてています。ご協力お願いします。

後援会員を募集しています

賛助会員 1口 1ヵ月 500円 本会員 1口 1ヵ月 1,000円

特別会員 1口 1ヵ月 3,000円 郵便振替番号 00950-1-300551 クリエイティブハウス「パンジー」

寄付をありがとうございました！

竹川節子様



上映会を開きませんか？ DVD も好評発売中！

知的障害がある人たちについて、もっと知ってもらうために、社会を変える力にしていけるために
パンジーメディアは、出張上映会や自主上映会を応援しています。

シンポジウムや人権の研修会、学校の授業、事業所の研修など、パンジーメディアの映画を通して、
語り合いや交流の輪が生まれ、知的障害がある人たちへの理解が広がっていくと思います。

費用・内容は、**パンジーメディア 072-968-7151** にお問い合わせください。

ホームページからも、確認できます➡



メールでもOKです！

pansymedia@pansy-net.or.jp

NEW



【完成しました！“私の歴史”LLブック！】

一人ひとりの物語に、大阪商業大学高等学校 デザイン美術コースの生徒さんが心を込めてイラストを描いてくれました。障害のある方と初めて出会った高校生たちも「深く知ることができた」と話してくれています。助成を決定して下さった公益財団法人ヤマト福祉財団様に、心より感謝申し上げます。



編集人 クリエイティブハウス
「パンジー」

東大阪市東鴻池町2-4-8

TEL:072-963-8818

FAX:072-963-8825

発行人 関西障害者定期
刊行物協会

大阪市天王寺区真田山町

2-2 東興ビル4階

それは「信頼」からはじまりました
なかまとの出会いが生んだ自由、やっと見つけた自分の居場所。
ぼくは一人であらしたい、みんなの思いを聞いてほしい

強度行動障害のある人と、
ともに生きる

映画上映&シンポジウム

2026年2月12日(木)

12:00 開場 / 13:00 開演

会場: 東大阪市文化創造館 大ホール

料金: 1500 円 / 障害者割引: 1000 円

ドキュメンタリー映画

つばさを びるげて

～私たちは地域であらしたい～

監督: 小川道幸

取材: 浅野真岳 / ナレーション: 安嶋 泉 / プロデューサー: 林 淑美
協力: 尾上浩二・谷奥克己 / 制作・著作: パンジーメディア

後援: 全国手をつなぐ育成会連合会・DPI 日本会議
日本グループホーム学会・ピープルファーストジャパン
障害者の自立と完全参加をめざす大阪連絡会議
東大阪市・東大阪市社会福祉協議会

強度行動障害のある人と、ともに生きる

支援を通して見えてきたこと それは「仲間との絆」の大切さでした——

監督：小川道幸

入所施設をなくすをテーマに、映画「大空へはばたこう ～自立への挑戦～」を制作して2年。しかし、入所施設は必要だという考えは、まだ多くの人が持っています。その理由は、「障害の重い人は地域では暮らせない」。

昨年、厚生労働省は、グループホームで暮らすことが難しい強度行動障害の人を2年間入所させ、集中支援をするという方針をつくり、そのための入所施設を新しく造る計画をたてました。入所施設で訓練をすれば、地域で暮らせるようになるのでしょうか。また、訓練という考え方は、本人の立場に立った支援なのでしょうか。

「強度行動障害がある人が地域で暮らすためにはどんな支援が必要なのか」この問いの答えはパンジーで見つけました。パンジーで活動している152人のうち、強度行動障害のある人は92人います。その人たちが、地域で暮らすことは難しいと思われてきたなかで、ほとんどの人がグループホームで暮らし、なかには一人暮らしの人もあります。なぜそんなことが出来るのか？そのヒントは、パンジーのこれまでの30年の経験の中にある。それを探れば答えを見つけることができるはずだ。そんな思いで「つばさをひろげて」の制作に取りかかりました。

まず始めたのは「強度行動障害のある人の今」を見つめよう。それを知ることで、何が問題なのかを知ることができる。そして、パンジーの人たちが地域で暮らすことができているのはなぜなのか。その答えを探るために、パンジーで活動する強度行動障害の人のこれまでの歴史や育った環境を調査、取材をしました。また、支援をしてきた職員にも、どんな支援をしてきたのかを聞き取りました。

そこから見えてきたひとつは「仲間の力」。強度行動障害があるけれど普通学校に通い、今は自立してグループホームで暮らす人。どこも受け入れてくれるところが見つからないなかで、あきらめないで粘り強く受け入れてくれるところを探した人。また、当事者との間に粘り強く「信頼」を築いてきた支援者たちは、どんな意識で当事者と向き合ったのか。そして、入所施設から出て重度訪問介護の制度を使って一人暮らしを始めた人がたどった道のり。最後に、パンジーで共に活動する仲間が語ってくれたのは「一番大切なのは共感」。

そして生まれたのが「つばさをひろげて ～私たちは地域でくらしたい～」



<プログラム>

12:00 開場

13:00～14:30

第1部 映画上映(90分)

つばさをひろげて

<休けい>

14:45～16:15

第2部 シンポジウム

強度行動障害の人と共に生きる

シンポジスト：

田中恵美子(日本女子大学人間社会学部教授)

小河 努(社会福祉法人くれんど 事務局長)

上野高裕(強度行動障害を持つ人の保護者・
うへのサポート事務所)

林 淑美(社会福祉法人創思苑 理事長)

ファシリテーター

小川道幸(映画監督)

上映会 会場アクセス

東大阪市文化創造館

〒577-0034

大阪府東大阪市御厨南 2-3-4

TEL. 06-4307-5772 (受付 9:00～20:00)

- 近鉄奈良線八戸ノ里駅 北約200m 徒歩約5分
※普通電車のみ停車します。
- 駐車場は駐車台数に限りがございますので、
公共交通機関をご利用ください。



チケットのお申し込み、お問い合わせ先 パンジーメディア
Tel 072-968-7151
Fax 072-968-7160

Webでのお申込みは..



こちらより



自主上映会の開催・作品についてのお問い合わせはこちらまで



パンジーメディア

大阪府東大阪市中新開 2-10-16
〒578-0911

Tel 072-968-7151 (平日 9:00～17:00)

E-mail pansymedia@pansy-net.or.jp

Web https://www.pansymedia.com

パンジーメディア

検索

スマホサイトは
コチラから





キリン福祉財団
キリン・福祉のちから開拓事業



しょうがい×せんきょ×ことば

バリアフリーな選挙参加と社会参加を推進するための
シンポジウムとワークショップ



と き：2026年2月26日(木曜日)
ばしょ：東大阪市文化創造館1F 多目的室

参加無料
(資料代 500 円)

選挙権は満18歳以上のすべての国民に付与される権利です。

しかし、障害者の現状に目を向けると、投票したくても、投票できない人たちがまだたくさんいます。障害の有無にかかわらず、すべての国民が参加できる真の意味で「ユニバーサル」な選挙を実現するために、わたしたちは今、何をなすべきでしょうか。

この問いに答えるために、わたしたちはこのシンポジウムとワークショップを企画しました。

障害のある当事者や障害者支援に携わる方々はもとより、「バリア」のない開かれた社会を目指す多くの人々にご参集いただき、ともに未来へつなげる方策を考えたいと思います。

主催：「知的な障がいのある人たちとやさしく選挙を学ぶ集いプロジェクト」推進委員会
共催：社会福祉法人創思苑、社会福祉法人ぷくぷく福祉会、社会福祉法人草の根共生会、
特定非営利活動法人ぱあとなあ
後援：東大阪市、ピープルファーストジャパン、全国手をつなぐ育成会連合会、
日本障害者協議会、障害者の自立と政治参加をすすめるネットワーク

■参加申し込み：Google フォーム
<https://forms.gle/L4zDnmHArwLd7nxA6>
*ライブ配信の予定はありません
■お問い合わせ：072-968-7151(創思苑 担当：福岡)



※お申し込みは、
シンポジウムと
ワークショップ、そ
れぞれ別に行って
ください

第 1 部

シンポジウム

SYMPOSIUM



2026 年 2 月 26 日(木)
10:30~12:40

シンポジウムでは、ゲストスピーカーをお招きし、障害者を取り囲むバリアの現状とそのバリアを打ち破り、障害者の選挙参加を推進しようとする全国の草の根活動の模様についてご講演いただきます。また実際に地域で活動に従事されている当事者や支援者の方々にご登壇いただき、取り組みの詳細をご報告いただきます。

内 容

1. 菅谷 泰行(元関西医科大学准教授) シンポジウムとワークショップのねらい
2. 園部 英夫(日本障害者協議会副代表) 障害者の選挙参加を阻む社会的障壁
3. 杉田 淳(NHK報道局選挙プロジェクト) NHK「みんなの選挙」について
4. 林 淑美(社会福祉法人創思苑 理事長) 活動に参加する当事者と支援者
「知的な障がいのある人たちとやさしく選挙を学ぶ集い」プロジェクト
5. 来場者との意見交換、質疑応答

第 2 部

ワークショップ

WORKSHOP



2026 年 2 月 26 日(木)
13:30~16:00

—「やさしいことば」の考え方とつくり方—

ワークショップでは、これまでに多くのメディアで取り上げられ、大きな反響を呼んだ選挙学習小辞典『せんきよのことば』の編纂に携われた菅谷氏に講師を務めていただき、豊富な具体例を交えながら、知的障害者にとってわかりやすい文章をつくるためのヒントを教えてください。

講 師 ・ 協 力 者

菅谷 泰行(元関西医科大学准教授)
「やさしいことば」の活動に参加する当事者

内 容

1. イントロダクション:「やさしいことば」の歴史と定義
2. 「やさしいことば」の考え方とつくり方
3. 当事者を交えての「やさしいことば」の実践練習
4. 振り返り ～きょうの経験をこれからどう活かすか～

「つばさをひろげて」えいが じょうえい映画上映&シンポジウム
チケット申込書もうしこみしょ

Faxまたはメールでお申し込みください。

Fax番号 **072-968-7160**

mail **pansymedia@pansy-net.or.jp**

お名前	
団体名	
ご住所	〒
電話番号	
Fax番号	
メールアドレス	
チケット枚数	一般 1500円× 枚 障害者 割引 1000円× 枚
ごうけいきんがく 合計金額	円
バリアフリーに ついて	<input type="checkbox"/> 車いす 名
お支払い方法	<input type="checkbox"/> ゆうちょ銀行 00960-3-128158 社会福祉法人創思苑 <input type="checkbox"/> 南都銀行 店番 782 普通預金 2008538 社会福祉法人創思苑 ※ 振込み手数料はご負担ください。 <input type="checkbox"/> 現金 当日受付けでのお支払い、または近くの場合は集金におうかがいします

お問い合わせ先

TEL 072-968-7151 (池辺・岩井)
mail pansymedia@pansy-net.or.jp



PANSY MEDIA

パンジーメディア

知的障害をもつ人たちの情報発信基地